

序

救急外来を訪れる患者には、多くの整形外科疾患が含まれます。特に、外傷患者においてその傾向は顕著で、軽症から中等症外傷の大半は整形外科外傷といえるかもしれません。研修医や非整形外科医の外科系当直医は、これらの症例に頻繁に対峙するにもかかわらず、この分野において十分な教育を受け実践する機会に恵まれていないと考えます。私は常日頃、この問題を解決するために救急外来で起こる整形外科外傷の見逃しや不適切な対応に関して注視し、それを発信する機会を模索してきました。そして、先般の第52回日本救急医学会総会・学術集会にて「救急医に知って欲しい整形外科外傷の知識とピットフォール」という企画をし、多くの聴衆に参加していただきました。

そこでの活動で羊土社とのご縁をいただき、「救急での整形外科外傷の初期対応 絶対すべきことを教えます」というメインタイトルで企画をいただきました。先述の研修医や非整形外科医の外科系当直医を読者としてイメージしつつ、整形外科をバックグラウンドとしており救急領域に造詣の深い先生方を中心に寄稿いただきました。サブタイトルを「適切に専門医に引き継ぐための、研修医の Must To Do」としました。整形外科外傷で扱われるより一般的な外傷に focus をあて、ほぼ全身を網羅するようにしたつもりです。本書が皆さんの指南書となれば幸いです。これにより、より多くの患者さんに皆さんによる適切な初期診療が施されることを期待します。

2025年6月

帝京大学医学部 救急医学講座 災害医療マネジメント部
虎の門病院 外傷センター
黒住健人